

学校レポーター's コラム

今号の「学校レポーター's コラム」は川根高校で行われたマラソン大会で優勝した大窪さん、瀧澤さんに寄稿いただきました

「完走した後の達成感は最高です！」

11HR 大窪 健太さん

マラソン大会が終ったの感想は、凄くほっとしています。なぜかという陸上部としてのプレッシャーがあったからです。

友達からも「陸上部だから勝てるだろ」などと言われ、本番までとても緊張していました。

1、2時間目の授業をやっているも緊張とプレッシャーで授業どころじゃなかったです。

その調子でマラソン大会がスタートしました。

走り始めると緊張やプレッシャーが消え、「絶対勝ちたい」という気持ちになりました。

最初は楽しかったがどんどんペースが速くなっていき、最後の1キロがとても苦しかったです。

でも応援してくれる人たちがいてくれて、最後まであきらめずに走りきることができました。

結果1位になることができ、ゴ



11HR 大窪 健太さん

ールした後は、「1位になれて良かった」というほっとした気持ちでした。

走った後は、役員の人たちが作ってくれたとん汁を食べました。

疲れたときに食べるとん汁は最高でした。

マラソンはとても疲れるスポーツですが、完走した後の達成感は最高だと思います。

僕はこれからもマラソンを続けていきたいです。

「声援に勇気づけられ走り続けました」

34HR 瀧澤 沙耶さん

私にとって、今年が高校生としての最後のマラソン大会でした。

私は、1年の時に2位という結果を残す事が出来ました。

その事は、バスケットボール部に所属している私にとって確かな自信に繋がりました。

2年になったら絶対に1位を取りたいと強く思いました。

しかし、2年の時は足の怪我のため出場する事が出来ず悔しい思いをしました。

その事もあり、今年のマラソン大会では「必ず1位を取るぞ！」と強く思っていました。

体育の練習では、本番をイメージして、自分のベストを知ろうと全力で取り組みました。

また、私は部活動にも出ており、体力の向上にも専念しました。

マラソンは自分を追い込み自分を成長させるスポーツであり、

つらくて、孤独で過酷なスポーツでもあると私は思います。

そんなスポーツだからこそ真剣に取り組めるのだと思います。走っている時は、何を考えていたか覚えていません。

ただ勝ちたいと、誰にも負けたくないと思っていただけでした。折り返し、ゴールに向かって走っているとたくさんの人達からたくさんの声援を受けました。

苦しく何度も歩きたいと思ったけれど、その声援に勇気づけられゴールに着くまで走り続ける事が出来ました。

高校最後の年に1位を取れてとても嬉しかったです。

高校最後の年に1位を取れてとても嬉しかったです。



34HR 瀧澤 沙耶さん